

2024年 11月 26日

### 島根中央信用金庫 2024年度上半期の業績について

島根中央信用金庫(島根県出雲市今市町 理事長 福間均)の2024年4月～9月の業績は、純利益が前年同期比7.4%減の5億30百万円となりました。

売上高にあたる経常収益は34.1%増の37億96百万円でした。個人の住宅ローンや法人向け貸し出しが伸びて貸出金利息が増加し、3期連続の増収となりました。経常利益は、7.2%減の7億31百万円でした。

本業での最も中核的な利益を示すコア業務純益(投資信託解約損益を除く)は、3.6%減の6億70百万円でした。

自己資本比率は前年同期比0.02ポイント低下の9.24%、不良債権比率は0.66ポイント改善の4.21%でした。

預金残高は3,025億円、貸出金残高は1,696億円で、ともに中間期末の過去最高を更新しました。

通期の業績予想は、経常収益が前年同期比6.1%増の61億28百万円、経常利益は1.4%増の10億74百万円、純利益は、法人税の増加により9.3%減の6億82百万円を見込んでいます。

単位:百万円、%

	2024年			2023年
	9月期	前年同期比	増減率	9月期
預金残高	302,500	11,834	4.0	290,666
貸出金残高	169,674	7,987	4.9	161,686
経常収益	3,796	965	34.1	2,831
経常利益	731	△57	△7.2	789
当期純利益	530	△42	△7.4	573
コア業務純益	670	△25	△3.6	696
コア業務純益(投資信託解約損益を除く)	670	△25	△3.6	696

- 売上高にあたる経常収益は、前年同期比 9 億 65 百万円(34.1%)増収の 37 億 96 百万円となりました。3 期連続の増収でした。
  - 個人の住宅ローンや法人向け貸し出しが増加し貸出金利息が 91 百万円増加しました。
- 経常利益は 57 百万円(△7.2%)減益の 7 億 31 百万円となりました。
  - 貸出金残高の増加や資金運用利回りの上昇により資金利益が 26 百万円(1.3%)増加しました。
  - 人件費が 21 百万円(2.8%)増加、物件費が 16 百万円(3.7%)増加した結果、経常利益は中間期としては 6 期ぶりの減益となりました。
- 当期純利益は、42 百万円(△7.4%)減益の 5 億 30 百万円でした。
- 本業での最も中核的な利益を示すコア業務純益(投資信託解約損益を除く)は、25 百万円減益(△3.6%)の 6 億 70 百万円でした。
- 預金残高は 4.0%増の 3,025 億円、貸出金残高は 4.9%増の 1,696 億円で、いずれも中間期末の過去最高残高でした。
  - 預金残高は、「地域応援！定期預金」シリーズが好評で、個人のお客様を中心に 118 億 34 百万円(4.0%)増加しました。
  - 貸出金残高は、個人向けの「住宅ローンぬくもり 130」が増加したことや、取引先企業への伴走支援の強化及び与信判断の迅速化を進めたことで、79 億 87 百万円(4.9%)増加しました。



本件に関するお問い合わせ先  
島根中央信用金庫  
経営企画部 竹下・三島  
TEL (0853) 20-1000

※ 「ユースエール認定制度」とは、若者の採用・育成に積極的で、若者の雇用管理の状況などが優良な中小企業を厚生労働大臣が認定する制度です。

